

■ 私たちはまだ自分のことをよく知らない

修正： 2029.01.01

投稿： 2029.01.01



● 私たちはまだ自分のことをよく知らない①

シャープペンシルが折れました。

(シャープペンシルの芯が折れたのではなく、

シャープペンシル本体がボキッ！とその内部が砕け散りました…

ペン回ししすぎて…)

//-----

さてさて、本題ですが、

人間の性質は非常に明確です。

「楽しい」ならば「続ける！」であり、

「苦しい」ならば「止める！」です。

小学生がゲームに夢中になるのは、楽しいからです。

逆に、勉強から逃げるのは、それが苦しいからです。

やがて小学生は中学生となり、高校生となり、

夢や目標を持つようになれば、「ゲームよりも、勉強だ！」と、

自発的に勉強する人も増えてきます。

**「勉強は苦しいものの、将来的には役に立つ。いや、そもそも、
何かを知ることは、それ自体が楽しいじゃないか！」**

と、意識できる範囲も広がっていくことでありましょう。

そうして、最初は苦しくとも後から楽できるのだと分かれば、

苦しいことと楽しいことを天秤にかけ、全体的にどうなのか

という視点で、物事を判断できるようになっていきます。

しかしながら、人生には**寿命**という限りがありますから、

無限に努力して無限に幸せになることはできません。

年を取れば取るほど、そういったことに気づき始めます。

そもそも**努力**とは、**未来の幸せのための投資**なので、

幸せを回収できる範囲で努力しなければ、努力する**意味**がありません。

素直に「楽しいこと」を求めることも必要なのです。

(努力と幸せの関係)

(続)

//=====//

●私たちはまだ自分のことをよく知らない②

人が集まると争いが起こります。

人間とはそういうものです。

そして、争いには「勝った・負けた」があります。

勝った方はもっと勝とうとして、再び争いを起こしますし、

負けた方は失った分を取り返そうと、再び争いを起こします。

私たちが常日頃よく、こうした争いを

繰り広げています。例えば、口喧嘩です。

口喧嘩で勝った側はスッキリしている以上、

話し合いが終われば「ハイ、終わり！」と

気持ちを切り替えることができます。ですが、

負けた側は相手に対して復讐心が芽生えます。

口喧嘩に負けた側は、自分の意見を否定され、

悔しい思いをしているわけですから、次こそはと、

相手を打ち負かしたい気持ちに駆られます。

これが「顔を合わす度に口喧嘩する人たち」です。

「まあ～、ケンカするほど仲が良いのねえ～ (*^_^*) 」

などとのんきなことを言っている場合ではありません…。

顔を合わす度に口喧嘩する人同士は、

これまでも度重なる口喧嘩をしてきた
という過去がありますから、

「あのとき〇〇された！」ということ思い出し、
お互いの顔を見る度に、相手への**恨み**から、
相手を打ち負かさないと気が済まなくなっています。やがて、

「自分が苦しんでもいいから、
何とかして相手を苦しませたい」と、
いかに相手を苦しませるかと考えるようになります。

(続)

//=====//

●私たちはまだ自分のことをよく知らない③

私たち一人一人にはユニークな性格があります。
とはいっても、効率的に性行為をするためにも、
性格のパターンはある程度は決まっていますが、

性格とは、**刺激(環境)に対する反応の仕方**のことです。
よって、育つ家庭環境が変われば、学習の結果も変わるわけであり、
したがって性格も変わってきます。例えば子供の頃、

「嫌なことがあった → 駄々をこねた」

という反応をしたとき、それに対して周囲の人(おそらく親)が、

「駄々をこねた → (親が折れて)何とかしてくれた」

となれば、子供からすると、

「**駄々をこねさえすれば上手くいく!**」と**学習**します。よって、

駄々をこねておもちゃを買ってもらおうとしたり、
駄々をこねて小遣いを上げてもらおうとします。逆に、

「駄々をこねた → (親が)助けてはくれなかった」となれば、
「駄々をこねることは問題解決にならない…」と学習し、
また別の反応を試みるようになります。

そして、前者のように、駄々をこねることを覚えてしまった子供は、
学校の友人に対してもそのような態度をとるようになり、
いつしか「自己中」と言われて嫌われるようになります。

そうして、誰からも相手にされなくなって初めて、
「駄々をこねることは良くない反応だった…」と改めて学習し、
別の反応を試みるようになります。

たまに、大人になっても駄々をこねたり泣き叫んだりする、
イタイ人がいたりしますが、そういう人は、
そうした反応が子供の頃に役に立ったからこそ、
そのまま「生きる術」として使い続けているわけです。

ある意味、親(の反応)が子供をダメにしたとも言えます。

(続)

//=====//

● 私たちはまだ自分のことをよく知らない④

「地球上で人間だけは特別な生き物なのだ！」
と信じられていた時代がありました。が、
ダーウィンの進化論によってそうではないことが

完膚なきまでに説明されてしまったわけです。
(宗教的には地動説に匹敵するほどの衝撃がありました)

私たちの**遺伝子**は、人類の歴史からすると、
何百万年もかけて作られたものだと言えます。
そして、人類の歴史の大部分は殺し合いです。

今でこそ、「人を殺すことは良くない！」
というような風潮になってきましたが、歴史的には、
それはごく**最近**の出来事なのです。

ゆえに、私たちの遺伝子には、
残虐な性質が色濃く残っているわけです。現代に似合わない、
グロテスクな描写を好む人がいるのも、**遺伝子ゆえ**です。
拷問はお好きですか？

はたまた、人類の歴史を遡れば、人間は**氷河時代**も経験しています。
あの時代は、食料の確保が何よりも難しかった時代ですから、
食べ過ぎた分を自分の体に蓄えるということを体は覚えました。
つまり、**贅肉とは当時の人からすると財産**だったわけです。

ということは、当時の人からすると、太った人は、
「うわあ〜、あの人、たくさん脂肪があつて、いいなあ〜 (*´3`)」
と、周りから嫉妬されていたのかもしれない。が、しかし、

氷河時代には重宝していた贅肉も、現代では
まったく**不要なもの**とされています。もし宝くじに当たって、
「おめでとうございまーす！賞品は脂肪 50kg であす！」
とかなったら、多分その人ブチギレますよ。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)